

学習のめあて

○ どの話のおもしろさをつかみましょう。

読んで考えよう

● 吉四六さんは、カラスをたくさんつかまえて、町へ売りにいくことになりました。

① カラスの肉など、くさくてうまくないが、どうしたらうまく売れるかな。

② 吉四六さんは考えました。

まず、キジを三羽手に入れました。キジをざるに入れて、カラスのかごの上におきました。そして、町へ入っていったのです。

③ 「カラスはいらんかなあ。カラスはいらんかなあ。」

吉四六さんは、大声はりあげて、売り歩きました。これをみた町の人たちは、

「あいつ、キジを持ってるのに、カラス、カラスって言ってるぞ。」

「カラスよりは、キジの方がよほど高いのに、どういうわけかな。」

④ 「ひとつ、買ってみるか。」

さっそく、吉四六さんを、よびとめました。

「おい、カラス一羽、いくらだね。」

吉四六さんは、ねだんを言いました。そのねだんは、キジにしては安すぎるし、カラスにしては高すぎる、というわけでした。

町の人は、そのねだんで、キジが買えるなら安いもんだと、

「一羽、おくれ。」

すると、吉四六さんは、

「先にお金をはらってください。先にはらわねば、売らんよ。」

そこで、何人かの人たちが、お金をはらいました。

⑤ 「よろしい。」

吉四六さんは、かごの中から、ほんとうのカラスを取り出して、

「はい、カラスだ。」

「ほい、そっちの人も、カラスだよ。」

そう言って、わたししました。町の人たちは、ばか高いカラスを買わされて、おこるここと、おこるここと。

次の問いに答えよう！

① このお話の主人公はだれですか。

② ①の人物が町へ売りにいったのは、何ですか。

① 線①「カラスの肉」とありますが、どのようなものですか。

ア おいしくて見た目がよい。

イ くさくてうまくない。

ウ きたなくて食べづらい。

★ヒント★「カラスの肉」が町の人たちに売れないのはなぜかな？

② 線②「吉四六さんは考えました」とありますが、何を考えたのですか。

ア カラスを町で売る方法。

イ キジをつかまえる方法。

ウ 町まで売りにいかなくてすむ方法。

★ヒント★直前の吉四六さんのことをよく読もう。

③ 線③「吉四六さんは、大声はりあげて、売り歩きました」とありますが、どのように売り歩いたのですか。

カラスのかごの上に、

をおいて売り歩いた。

★ヒント★どうすればカラスが売れると考えたのかな？

④ 線④「ひとつ、買ってみるか」とありますが、町の人たちはなぜ買ってみようと思ったのですか。

ア カラスをおいしそうだと思ったから。

イ カラスを買いたいと思ったから。

ウ キジを売っていると思ったから。

★ヒント★町の人たちは何を思ったのか？

⑤ 線⑤「よろしい」とありますが、このとき、吉四六さんはどんな気持ちでしたか。

「カラス」を使ってみよう

★ヒント★町の人たちは、吉四六さんの計画にだまされてしまったんだね。

声を高く強へ出す。
はりあげる

読んできえよう

① 生まれたての地球は、あつい火山のようにどろどろにとけたかたまりでした。そのまわりを、あつい雲やこいきりがとりかこんでいました。

りくも海もない、あついどろどろのかたまりの地球が、何万年も何おく年もたつち少しづつひえて、あつい雲から雨が落ちてきました。落ちた雨はあつい湯となつていろいろなものをとかして流れ、また湯気となつて空にのぼつてゆきました。こうして雨がふり続け、あつい湯はとかし続け、また雲となることをくりかえしているうちに、地球の上がもっとひえてきました。とろけていた地球は、ひえて岩をつくり、高い所は山となり、ひくい所にはふつた雨が集まりました。集まった水は、大きなかたまりとなつて、海になりました。海の水の中には、岩の中にあつたいろいろなものがとけこんでいました。その中で塩が、いちばんたくさんとけていました。

② 海と山ができてから、何万、何おく年たつうちに、海

③ の水の中で、小さなさいしよの生き物が生まれました。何千、何万年たつうち、さまざまな生き物がふえいろいろななかまが生まれてゆきました。中には、海から上がっておかでくらすものも出てきました。

こうして地球にはさまざまな生き物が生まれふえていきました。海には魚がふえおかには鳥やけものが生まれ、人間のせんぞも出てくるようになったのです。

④ これでもうみなさんは、海がなぜからい塩水なのかわかったことでしょう。みなさんが海へ行つたとき海の水をなめてからかったら、ああこれは大昔雨がふつて、あつい湯になつて流れ、岩や石の中にあつた、たくさん塩をなべんもなんべんもかきまぜるようにとかしたので、こんなにこい塩水になつたんだなと思ひ出してください。

次の問いに答えよう！

① 何についての文章ですか。 (理由)について

② ①の理由をときあかすために、何を説明していますか。 (のれき)

① 線①「生まれたての地球」とありますが、どのようなものでしたか。

ア リくや海があるかたまり。
イ ひえた岩でできたかたまり。
ウ あついどろどろのかたまり。

② 線②「海と山ができてから」とありますが、地球に海と山ができるまでに起こつたことを、正しい順番にならべかえましょう。

ア 岩をつくり、高い所は山となり、ひくい所にはふつた雨が集まる。

イ 雨がふり、落ちた雨があつい湯となつていろいろなものをとかして流れる。

ウ 地球が少しづつひえて、あつい雲から雨が落ちる。

③ 線③「小さなさいしよの生き物」とありますが、どこで生まれましたか。

④ 線④「海がなぜからい塩水なのか」とありますが、なぜですか。

大昔ふつた雨が、湯になつて流れるときに、

から。



90ページ

- 地 キユウ
- 球
- 流 ながれる
- 湯 ヲ

「のれき」を使ってみよう

↓とけてまわらぬ。 ↓今生きている人より前のじだいの人たち

↓とけこむ。 ↓せんぞ

★ヒント★さいしよのだんらくに書かれていることをまよめよう。

★ヒント★はしよをあらわすことばをかきよう。

★ヒント★二つ目のだんらくに書かれていることをたしかめよう。

読んで考えよう

「ぼく」の家では、フーチという犬をかいはじめました。

「ほら、ごはんだった。」

ママが、こなミルクとかんづめをぼくにわたした。

「まだ、フーチは二か月だから、＊離乳食なのよ。ミルクとかんづめのえさをませてあげて。」

「ま、よろしく。」

パパもママも、フーチの世話をみんなぼくにおしつけていっちゃった。

それから学校に行くまでの一時間、①ぼくは大いそがしだった。

えさをあげて、庭にはなして遊ばせる。便のあとしまつもしなくちゃあいけないし、ベビー毛布もお日さまの光にあててあげなくちゃあー。

あつというまに一時間がすぎてしまふ。

いちばんつらいのは、フーチを小屋につないで学校に行くときだ。

「すぐ帰ってくるから、おりこうにしていね。」

②ぼくがはなれようとする、とっても悲しそうな声で鳴く。

フーチにはわからないんだよ。さっきまで遊んでくれたのに、どうして行っちゃうのか。

ぼくがはじめて幼稚園に行ったとき、ママがいなくて泣いた日のことを思い出した。ぼくだって、どうしてとつぜんママが消えちゃうのかわからなかったもん。

だけどだんだん慣れて、ママやパパとはなれて遊べるようになったし、友だちと遊ぶほうが楽しくなった。きつと、フーチもいまにひとりぼっちのるすばんにもなれるさと、ぼくは思った。

フーチはぼくが思ったとおり、③一週間もするとぼくのとを追わなくなった。

「フーチ、すぐ帰ってくるからね。」
ランドセルをせおってバイバイすると、フーチはさびしそうな横目でぼくを見て、しおしおと犬小屋に入っていく。そしてこのごろは、学校に行く時間や、帰ってくる時間をおぼえているようになった。

(注) 離乳食はまだふつうのご飯が食べられない赤ちゃんや子どもにあたえるやわらかい食べ物。

30

25

20

15

10

5

次の問いに答えよう！

① 「ぼく」がかっている犬は何とらう名前ですか。

② ①の犬は、生後何が月ですか。

① () か月

① 線①「ぼくは大いそがしだった」とありますが、ぼくが学校に行くまでにしなければならぬことは何ですか。

ア 自分のじゅんぴ。 イ フーチの世話。

ウ ママの手つだい。 ★ヒント★「ぼくはなせ」「大いそがし」だったのかな？

② 線②「ぼくがはなれようとする、とっても悲しそうな声で鳴く」とありますが、

① このときのフーチは、どんな気持ちですか。

ア さびしい気持ち。

イ うれしい気持ち。

ウ はずかしい気持ち。

★ヒント★自分において、「ぼく」が学校に行ってしまうときの気持ちを考えよう。

② このときの「ぼく」は、どんな気持ちですか。

ア 楽しい気持ち。

イ あせる気持ち。

ウ つらい気持ち。

★ヒント★「ぼく」の気持ちを書いているぶんをさがそう。

③ フーチが悲しそうな声で鳴くのは、なぜですか。

フーチには、

わからないから。

★ヒント★「ぼく」がはじめて幼稚園に行ったときと同じりゆうだね。

③ 線③「一週間もするとぼくのとを追わなくなった」とありますが、なぜですか。

フーチが

になれてきたから。

★ヒント★フーチがなれてきたとは何か？

「おしおと」

「元気がなく、しよんほり」

「おしおと」

消える

読んで考えよう

おそろしい大地震は、そんなにたびたびおこるものではないけれど、小さな地震なら、きみもときどき感じたことがあるだろう。

たとえば東京では、からだに感じる地震は、1年間に30回ぐらいおこっている。

① いったい、地震はなぜおこるのだろうか？

むかしの人びとは、地下にすむ大ナマズが地震をひきおこすと信じていた。

この考えは、江戸時代のおわりごろには、日本じゅうにひろがっていた。

それは、そのころ、あちこちで大地震がつづいたためでもあった。(中略)

ナマズが地震をおこすなどということは、もちろん、めいしんだ。

いまでは、地震のおこる原因としくみは、かなりわかってきている。

15

10

5

次の問いに答えよう！

① 何についての文章ですか。

()の原因について

① —線①「いったい、地震はなぜおこるのだろうか？」とありますが、

① ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★ヒント★直後の文をよく読もう。

② (1)の考えがひろまったのは、なぜですか。

ア 研究されたけっかだったから。

イ 本当に見た人がいたから。

ウ あちこちで大地震がおこったから。

★ヒント★「ため」という理由をあらわすことばをさがそう。

③ いまでは、地震の原因はどういうことだと考えられていますか。

地面の下で、

こと。

★ヒント★「地震の原因」ということばのあたりをよく読もう。

② —線②「静かな池の水面に、小石をなげてもみよう」とありますが、

① このたとえは、何を説明していますか。

★ヒント★直前の文に書かれていることを説明しようとしているんだね。

② このたとえでは、「地震のおこる場所」をどのように表現していますか。

★ヒント★たとえが地震の何にあたるのか、考えよう。

③ 地震のおこるしくみを、正しい順番にならべかえましょう。

ア 地下で岩石がこわれる。

イ 波が地面にとどく。

ウ こわれたショックが波となって進む。

★ヒント★わたしたちが地震を感じるまで何がわかってきているのかな？

このよば、使ってみよう

→ 何度も。 → たびたび
→ わかしかの言いつたえ。 → めいしん
→ 強い力。 → ショック
→ きょううにくわわあ。 → ショック

波 進む 深

② 静かな池の水面に、小石をなげてもみよう。

小石がおちたところを中心にして、まるい輪がいくつもいくつもひろがっていく。

その輪は、小石がおちたときのショックでおきた波なんだ。

地震もこれとおなじように、地下の、あるところから出て、岩石のなかをつたわってくる波なんだ。

地下の、あるところでは岩石がこわれ、こわれたときのショックが波となって、地下の岩石をふるわせながら進んでくる。

その波が地面にとどいたときに、わたしたちは地震を感じるんだ。

つまり、地面の下、数10kmもの深いところで岩石がこわれる、それが地震の原因なんだ。

そして、岩石のこわれる場所が広く大きいほど、大地震となつて、はげしく地面をゆらすことになるんだ。

このように、地下深く、地震のおこる場所を震源とよんでいる。

池でいえば、小石のなげこまれたところにあたるわけだね。

35

30

25

20

10

5

波 進む 深